



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

学 報

2010.12.10 Vol.126

三蔵五訓

真理を探究し、道理を実践する。
豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。
生命を尊重し、自然を畏敬する。
個性を伸展し、紐帯性を培う。
未来を志向し、可能性に挑む。



2010年 第36回三蔵祭



第36回 三蔵祭	1
第2回 ホームカミングデー開催	3
じばさんフェア2010	4
地域連携活動	5
拡がる教育	7
キャリア教育	9
研究の今	10
学内トピックス	11
インフォメーション	12
学友会短信	13
国際交流瓦版	14
入試広報室から	15

第36回 三蔵祭

三蔵祭を終えて



今年で36回目を迎えた三蔵祭は『福大色~SANZO色に染めまSHOW~』というテーマを掲げ、三蔵祭運営委員会一同は皆様に楽しんでいただけるよう全力を尽くしました。

特に今年の大学祭は五つの学部と、三蔵祭運営委員、ご来場の方々が一体となるような三蔵祭にしたいと考え活動してきました。各学部・学科による展示、多数のサークルや研究室による模擬店、イベントなど多くの人的協力により、虹のように輝かしい三蔵祭になったと思います。

特別企画では『植村花菜』『SCANDAL』によるライブを行い、更に盛り上げることができました。

今年の三蔵祭は最終日が悪天候にもかかわらず、学内外の多くの方々に来場していただきました。ライブ会場を変更する等ありましたが、皆で一致団結し1日、1日を全力

で取り組みました。ご来場くださった皆様の満足された様子を拝見することができ、三蔵祭運営委員会一同も最高の三蔵祭になったことを大変嬉しく思っています。三蔵祭全体を通して団結することの素晴らしさを再確認することができました。学内外の協力者やご来場いただいた方々に心よりお礼申し上げます。来年も今年以上に良い三蔵祭になるよう、三蔵祭運営委員会一同さらに努力していこうと思います。本当にありがとうございました。

第36回三蔵祭運営委員会 委員長

人間文化学部 人間文化学科

3年 香川 雄基

第36回三蔵祭運営委員会 副委員長

人間文化学部 人間文化学科

3年 山岡 翔太

経済学部 卒論中間発表会(Part2)感想文

私は三蔵祭の日に行われた卒業論文中間発表会に参加させていただきました。私のゼミからは1名参加ということだったのですが、ゼミで検討した結果私が発表することになりました。私はそれから自分が取り組んでいる卒業論文の内容である(日本の消費税は諸外国に比べて高いか低い)についてパワーポイントで簡単にまとめ発表原稿をつくり当日の発表に備えました。発表当日、私は一番手になっていました。かなり緊張しました。

私が当日に発表した内容ですが、「現在

日本はなぜ増税しなければならないのか」を簡単に説明し、そこから私の論文の主題にあたる部分に入りました。「日本の消費税率と諸外国の消費税率」をパワーポイントでまとめたものをまず表示し、次に「日本の消費税率と諸外国の生活必需品にかかる消費税率」を比較し、このパワーポイントでの表示から現在の日本の消費税率は低いとはいえないという考察で発表を終了しました。その後質疑応答になりたくさんのアドバイスをいただきました。

①税収において消費税がどのくらいの割

合をめているのか。これについて調べれば論文の信憑性が増すのではないかと

②国民の負担の割合はどうなのか。これも調べたらよい、などその他多くのアドバイスを頂きました。発表を終えて私はこの中間発表会に参加させていただいて視野が大きく広がったと思います。この頂いたアドバイスを基に調べ、担当教授に相談し卒業論文の内容をさらに充実したものにしていこうと思っています。

税務会計学科 4年 片田 浩二

人間文化学部 ゼミ研究発表と作品展示

メディア情報文化学科では毎年、学年ごとにゼミで研究していることを分かりやすく伝えるために、パネルの展示を行っています。特に私たち3年生にとっては、卒業論文に向けた中間発表の場でもあります。自分が作成したパネルの横に立ち、見に来て下さった人たちに対して、その内容を分かりやすく説明したり、質問に答えたりというポスターセッションの形ですすめました。1人の持ち時間は1時間。説明と質疑応答を15分程度で一区切りにして、同じことを4回説明することになりました。緊張しま

したが、来て下さったすべての人が、自分の話に熱心に耳を傾けてくれ、またたくさんの質問やアドバイスも頂けたりするので、とても参考になり、やりがいを感じた時間でした。発表そのものも、1回目の反省を生かせるので、徐々に上手くなった気がしました。また、他のゼミ生の発表も聞くことができたことで、みんながどんなことに興味や関心があり、何を研究していくのかを知ることができました。知識も広がり、今後の卒業論文に向けてのモチベーションを上げるには良い機会になりました。

メディア制作サークル「Good Jam Factory」の展示も、同じ部屋で行いました。このサークルに所属している私は、画像ソフトを使って制作した作品を展示しました。背景色や使う画像、文字の大きさなど、いろいろ試行錯誤しながら制作したものです。メンバーみんなが一生懸命考えた個性豊かな作品を展示することができて、非常に濃密な三蔵祭でした。

メディア情報文化学科

3年 鈴木 志保美

工学部 ランプシェードづくりのワークショップに参加して

建築・建設学科の学科展示は、昨年に引き続いてランプシェードづくりのワークショップを開催しました。

このランプシェードの特徴は、骨組みを使わずに紙だけで立体を作る折板構造の考えを利用しているところです。難しそうですが、折り紙を折る要領で児童から高齢者までの幅広い年代の方に楽しんで頂くことができます。

制作時間に40～50分は掛かるところがとても気がかりでしたが、小さな子供連れのご家族から学生さんまで、多くの方に楽しんでもらえました。



ランプシェードの制作風景

お客さん同士が教えたり、助け合ったりしながら楽しく作っている様子は、なんとも微笑ましく感じました。中には「去年出来なかったのが今年つくりに来ました」という方や、「是非来年も開催してください」と言

われて帰っていかれる方もいらして、「やってよかったなあ」と実感した一日でした。

工学研究科 建築学専攻

1年 小林 渉

生命工学部 私たちが創った大学祭!!～初めての経験を通して感じたこと～

海洋生物科学科では、私たち1年生も展示作成や催しに参加しました。1年生が主に担当したのは『金魚すくい』、『タッチングプール』、『ドクターフィッシュ体験』の3つでした。その中で、私は『金魚すくい』を担当しました。初めての経験だったので、企画を



立ち上げた頃は何をすればいいのかわからないうまく時間だけが過ぎていきました。どうすればお客さんに楽しんでもらえるか? 魚について知ってもらえるか?などを考えながら、同級生が一丸となって準備を進めました。

そしてついに、大学祭当日を迎えました。最初は少なかったお客さんの数も、屋ごろになると金魚が泳いでいるプールを取り囲むほどに膨れ上がりました。接客とポイ貼りの作業や、1日目の終了後、先生と金魚を買い足しに行ったことも良い思い出となりました。2日間の総来客数は、予想を超えた過去最多の1800人だったそうです。じつは、大学祭の前日、魚が届いたその夜に

停電が起こるというハプニングがありました。しかし、先生方のお陰で1尾も死ぬことなく大事には至りませんでした。自分たちの力だけでは及ばないところを先生方がカバーしてくれたことで、今回の催しが成功したと思っています。自分たちが一所懸命に考えた企画を楽しんでもらい、なおかつ知識を高めてもらえたことで、本当にやってよかったと思います。それは、他の同級生たちも同じように感じているでしょう。大学祭を通して得られた経験を、今後活かして行きたいと思っています。

海洋生物科学科 1年

栗田 翔太・寺岡 洸

薬学部 『薬学の世界を体験しよう!!』

薬学部では、化学、薬理、学生薬局、衛生、薬学部運営班から11件の催しを行いました。各班共に独創的な内容を展開しており、多くの方に来場して頂きました。

化学班では「化学の世界を体験しよう」をテーマに、ルミノール反応やダイラタンシー流体など、身近に存在する化学実験を紹介し、敬遠されがちな化学のイメージを少しでも変えたいという思いでさまざまな催しを行いました。

薬理班は、薬が体の中でどのように作用するのかを基本に置き、薬と薬の飲み合わせにより起こる主な副作用をテーマごとに調べたものをクイズ形式にしてみました。方々に見て頂きました。また、モルモットを実際に触れられるコーナーも好評でした。

学生薬局班では、モデル薬局を利用し、



毎年好評を頂いている恒例のハンドクリームや入浴剤の調製体験、そして多くの方が気になる内臓脂肪、ビタミン、食べ物と薬の飲み合わせに関するお話などを提供しました。

衛生班は、「メタボとセルフチェック」をテーマに話題のメタボについて調べた内容を発表し、最新機器による骨密度や身体組成分析、血圧・血流量の測定を行いました。多くの訪れた方々が自分のセルフチェックをされていました。

薬学部運営班は、恒例となっている「ウ



グイスパウダーの体験」「紫雲膏の調製」「体力測定」「ゲーム」に加え、「ダイエット・口蹄疫」について調べて発表しました。ダイエットでは体験コーナーも設けて実際に体験してもらうことで親しみを持ってもらいました。

薬学科 3年 各班のリーダー

化学班	西	翔平
薬理班	上野	彩香
薬局班	村田	真友理
衛生班	木村	由佳
運営班	内田	圭祐

— 第2回ホームカミングデー開催 —

卒業生のみなさん、母校はいかがでしたか？

福山大学 学長 松田 文子

福山大学創立35周年でもある今年、第2回ホームカミングデーが10月23日(土)に開催されました。卒業生のみなさん、母校はいかがでしたか。昔の仲間、先生、職員の人たちと会えましたでしょうか。話は弾みましたでしょうか。全体行事、学科行事、三蔵祭は楽しめましたでしょうか。



昨年の第1回同様、三蔵祭の期間中に行いましたが、昨年は日曜日の午前中、今年は土曜日のお昼でした。その方が、遠方から来ても急いで帰らなくてよいし、夕方から学科やゼミの同窓会が開きやすいだろうと考えて、土曜日のお昼にしたのですが、…第1部の行事である、12時45分からの式典(「福山大学の歌」斉唱、学長挨拶、理事長挨拶、同窓会長挨拶)と講演会への卒業生の参加は、218名で昨年度より67名の減でした。



宮地理事長の挨拶



松田学長の挨拶



三谷同窓会長の挨拶

多くの同窓生に母校に帰ってきてもらい、教職員とともに福山大学との一体を味わう、という趣旨からすると、まだまだ工夫の余地があったようです。聞いてみると、土日のお昼は、「まだ仕事をしている」という人が結構いるのです。このホームカミングデーを機会に、夜、学科やゼミの同窓会を開いたところは多く、そのいずれもなかなか盛況だったという報告でした。「土曜日は仕事で夜も遅かったので」といって日曜日の大学祭に出てきてくれた卒業生も少なからずいました。また、ホームカミングデー実行委員会による大学祭の他の行事との開催時間の事前調整不足もあって(事前調整がどの程度可能かも難しいところですが)、第1部の間には、スピーチコンテストをはじめさまざまな大学祭行事があり、第2部の学科行事の間にも人気歌手のコンサート等があり、かなりの卒業生の方がそちらに行かれたそうです。それやこれやで、トータルとしてみれば、「三蔵祭には、ホームカミングして、卒業生と教職員共々旧交を温めよう」という気運は、高まってきたのではないのでしょうか。先生方も、新旧の卒業生に「三蔵祭には、ホームカミングして、卒業生と教職員共々旧交を温めよ」と、折に触れお伝えいただければ幸いです。次回はさらに目的に沿った有意義なものになるように改善したいと思いますので、建設的なご意見をお待ちしています。特に、教職員に会いたいと思って帰って来た卒業生が、お目当ての人に確実に会えるようにするには、どうしたらよいでしょう。

ところで、今回は、福山市出身の、本格ミステリー作家の第一人者である島田荘司氏の講演を式典の後に行い、一般公開しました。平素はロスアンゼルス在住なので、福山大学のホームカミングデーを機会に、島田氏にもホームカミングしてもらって、地元の方々にも迎えてもらうという企画でした。少々遠方の熱烈なファンも含め、一般の方が100人以上来られ、講演会の参加者は約350名でした。とても知的な興奮を呼ぶ、すばらしい講演で、アンケートでも好評でした。



島田荘司氏による講演会

さて島田氏は講演中も講演後も、福山大学にミステリー研究会がないのを残念がっておられ、「福山大学にミス研ができたなら、顧問になって、福山市に帰ってきたときは部室に顔を覗かせるよ」とまでおっしゃってくださいました。この学報が発行になる頃には、ミス研が産声を上げているかもしれません。第2回ホームカミングデーの副産物として、ミス研をぜひ育てて大学の活性化にもつなげたいので、学生の皆さんの積極的なお申し出と参加を待っています。

最後に、この行事のために早くから準備に取りかかり、当日もさまざまにお手伝いくださいました教職員の方々に、第2回福山大学ホームカミングデー実行委員長として、心より感謝申し上げます。

地域連携活動

じばさんフェア2010

じばさんフェア2010で福山大学を紹介

福山大学と福山平成大学の後援した「じばさんフェア2010」(主催:備後地域地場産業振興センター)が、11/13(土)、14(日)の2日間に渡って、広島県立ふくやま産業交流館(ビッグローズ)で開催されました。備後地域の企業展示、研究機関の展示、地場産品や飲食の販売など81件の出展があり、2日間で9300名の一般の来場者がありました。



福山大学は12ブース、福山平成大学は5ブースの出展を行い、一般の方に両大学の教育研究内容をよく理解していただけるよう努力しました。また、福山大学の三蔵太鼓と吹奏楽部がステージで演奏し、会場を盛り上げました。



大学の航空写真を前に、こんなにたくさんの施設があるのかと感心したり、家の近くですと熱心に見ておられたり。最終日には、是非くださいと言う人がこられたので人の目につくところに貼ってくださいとお願いました。



福山大学と福山平成大学の入試相談と就職相談には、受験生の親が来られゆっくりと話をされました。



薬学部は、福山市薬剤師会と協力し、ブラウンバック運動などのお薬相談、血流測定や体組成測定などを行いました。薬剤師会会長や教員、卒業生の薬剤師、実習中の5年生が忙しきで対応していました。



生命栄養科学科では、骨密度測定を行いました。開催期間中、常に測定の行列ができ、学生の手際の良い対応が印象に残りました。



人間文化学科の、写真と3択の問題を書いたパネルを辿りながらの地域文化と京都研修クイズ20問は、なかなかの難問でしたが、来場者の知的好奇心をくすぐっていました。また、丁寧な解説パンフレット

と記念品の写真はがきは、参加者に満足感を与えていました。



心理学科では、青色・白色LED複合防犯灯を暗幕で囲ったボックスで体験してもらいました。



機械システム工学科では、教育研究内容や電気自動車の展示をし、紙トンボの制作で子供をとりこにしていました。

建築・建設学科と構造材料開発センターの展示でのアトラクションの竹とんぼの制作のところでは、竹筋コンクリートの質問がでしたが、教員が詳しく説明していました。

子供に人気と言えば、ロボット、インベーダゲーム、3Dメガネの制作、マウスなどもありました。

経済学部、社会連携センター、グリーンサイエンスセンターは、パネルと本などの展示を行いました。

来場者は、やはり体験したり、膝を突き合わせて話のできるものに集まりましたが、展示の内容により、高齢者と子供のどちらが主に集まるかが決まっていた。中高生、大学生や若者の来場者がある場合にも好まれる体験型展示かどうかは、常に意識しておく必要があると思いました。いずれにしても半日単位で延べ83名の学生と100名の教職員の活躍があればその行事でした。

社会連携センター産学連携部門長

生命栄養科学科 教授 山本 英二

東村小学校5,6年生への陸上競技指導

東村小学校の5,6年生を対象にした陸上競技の指導を、陸上競技部部員を中心に10月下旬から11月上旬にかけて計3回、行いました。平成18年から続けて本年度で4回目となりました。今年は、経済学部4年の朝倉克典君を中心に、延べ8名で指導に当たりました。11月6日に竹ヶ端陸上競技場で行われた小学校の記録会に向け、リレー、ハードル、ボール投げ、走り幅跳び、走り高跳び、長距離走などを子供たちへ指導しました。非常に元気の良い子供たちで、2時限続けての指導でしたが、途中の短い休憩時間にも、学生に駆け寄って楽しそうに遊んでいました。よく説明も聞き、飲み込みも早く、ポイントをつかむとすぐにできるようになり、リレーのバトンパスなどもみるみる上達しました。その様子を見て、学生も刺激を受けていたようです。また、今回指導にあたった学生も積極的に子供たちに接していこうという姿勢が見られ、比較的早く子供たちと良い関係ができた



学生によるジョギング指導

ていたように思います。陸上競技は単純な競技ではあるのですが、楽しさの一端でも伝わったのではないかと思います。しかし、学生は課題も感じたようで、「少ない人数に対してでも、限られた時間内に的確に指導することは難しい」と話していました。物事を教えることの難しさを経験できたということは、非常に良い社会勉強になったと思っています。

普段接することの少ない年代の子供たちと、スポーツを通じて触れ合うことで多くのことを学ぶことができたことは学生にとって大きな財産となったことと思います。今後このような地域との連携が継続して行えるようにしていきたいと考えています。

福山大学陸上競技部顧問

税務会計学科 准教授 鶴崎 健一

科学の楽しさー「バイオ実験」開催

酷暑だった夏の一、平成22年7月24日(土)午後、生命工学部「楽しいバイオ実験」が開催されました。この企画は、生命工学部と福山バイオビジネス交流会とが共催する「生命工学公開授業」の一環として、毎年この時期に開いています。今年で第10回を数えることとなり、参加者並びにスタッフ・協力者の方々に感謝申し上げます。

「実験」には、昨年度から、福山市内の小学生にも参加を呼びかけています。今年も多くの希望者の中から、小学生以下71名、中高生7名および大人の参加者(保護者含む)93名の、計171名が集うこととなりました。参加者は、学部3学科の実験・



チリメンモンスターを探せ！



酵母と遊ぼう！

実習室に分かれて、「酵母と遊ぼう」「チリメンモンスターを探せ」「美味しい米粉パンづくり」など、計8つの実験テーマに取り組みました。親子で参加した小学生たちは、最初は緊張していましたがやがてすぐに慣れ、目を輝かせ、時には歓声を上げながら、それぞれ実験を楽しんでいました。

科学心を熱くしてくれたと、信じます。この活動が、理科好き少年少女を育てる土壌を育む契機になればと願っています。

なお本年は、マツダ財団および科学技術振興機構より補助を受けたことを付記しておきます。

生物工学科 教授 秦野 琢之

福山大学発！ リレー講座

福山大学社会連携センターでは、昨年の6月から毎月のペースで「福山大学発！リレー講座」を社会連携研究推進センター（宮地茂記念館）で開催しています。福山大学は、教育改革に向けた行動計画のひとつとして、地域社会への連携に積極的に取り組んでおり、このため社会連携センターでは、本学が持つ研究成果を地域へ還元し、また地域の人材育成に貢献することも地域の大学の大きな役割と考えています。

リレー講座は、政治・経済をはじめ心の問題、ものづくりなど市民の関心が高い

テーマを選ぶこととしています。今年も毎回熱心な方が、メモを取りながら聴講されています。参加者の中には「毎回楽しみにしている」、「身近なテーマで気楽に聴講できる」など、今ではすっかり定着した講座となっています。

また今年度のリレー講座は、6月から12月までの7回については、文部科学省による福山大学社会連携研究推進事業と連携して実施しています。この事業は平成19年度より「健康なからだづくり」をはじめ7つのプロジェクトで取り組んでいるもので、統一テーマは、地域のニーズに応える



よう「健全なところとからだに支えられたまちづくり」となっています。

リレー講座は、こうした事業と連携することにより、教育や研究の多様な側面での地域との結びつきを一層深め、地域の活性化にも貢献していると考えています。

次回1月のリレー講座は、田中秀征本学客員教授が、「最近の政治」と題して最新の情報を交えながら分りやすく講演されます。参加にあたっては無料です。皆様のご来場をお待ちしています。

経済学科 教授 平田 宏二



備後経済論

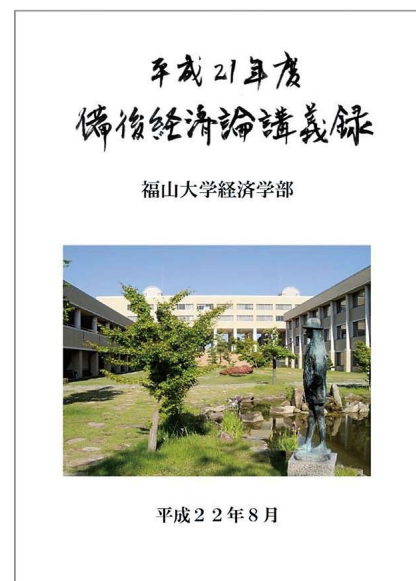
備後地方の製造業は、多様な業種から構成され事業所数、従業員数、工業出荷額等でみると全国有数の一大集積地となっています。また商業においても広島県東部だけでなく、岡山県西部を含めた広い圏域の拠点都市となっています。

経済学部ではこうした現状から地域とのかかわりを一層深めることとし、後期授業として毎年「備後経済論」を開講しています。「備後経済論」では、地元企業の経営者を講師に招き、経営理念や企業の立上げ話、若い世代への、メッセージなどを

語っていただき、学生たちが地域社会の実情や社会は何を求めているかなどを学ぶことは極めて意義深いと考えています。またこの講義は、一般の授業では学ぶことができない生の声を聞くことにより、学生たちが社会そのもの、さらに地元企業、備後経済に理解を深めることができるとして地元各界から評価が高まっています。

今年度の講師には(株)エフピコ、しまなみ信用金庫、(株)丸善製菓、小川楽器製造(株)の経営者など多彩な方をお願いしています。「備後経済論」は今年で7回目となり、体験に基づく貴重なことが聞けるとして、学生たちをはじめ毎回20～30人の社会人が聴講(無料)されており、地域にすっかり定着した授業となっています。

また多くの関係者から講義の内容をまとめて欲しいとの要望があり、去る8月「平成21年度備後経済論講義録」を刊行しました。お願いした経営者をはじめ周辺の高専学校や市立図書館などへ配布して、高



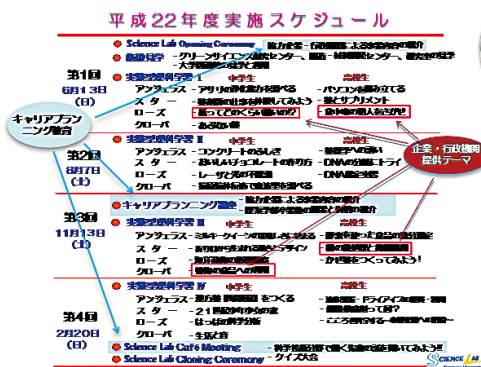
校生の進路指導や関心のある人たちのために大変喜ばれています。

経済学科 教授 平田 宏二

サイエンスラボ(Science Lab)

平成22年度の理科教育支援事業“Science Lab”は、募集定員を大きく上回る194名の参加登録を得て、表に示したスケジュールで展開しています。Science Labは、中高生の理科離れを食い止めるとともに、欧米に比べて立ち遅れの目立つ科学技術領域への女性の進出を図ることを目的として、男子生徒対象の社会連携研究推進事業PJ8「理科離れ対策」と、女子生徒対象の「女子中高生の理系進路選択支援事業」～輝け 未来の女性Scientist Enjoy Science Lab!!～を連動させて取組んでいます。いずれも文部科学省関係の事業ですが、女子生徒対象の取組みについては、多数の公募の中から3年間連続して審査に合格し、今年度は、東京大学、神戸大学、熊本大学、国立女性教育会館、奈良工業高等専門学校と共に委託機関となりました。

Science Labでは、科学への関心を喚起するために計4回の実験型理科学習を実施し、中高生に理科の楽しさ面白さ、そして神秘さに触れてもらっています。さらに、今年度は、科学技術領域の職業に就いた自己の将来像を具体的にイメージすることで理系選択が促されると考え、実験型



理科学習に加えてキャリアプランニング講座を開催しています。この講座で、理系学部学科の学生により大学生活の様子や卒業後の就職先、取得可能な資格についての紹介が行われました。また、地元を代表する企業、丸善製菓(株)、JFEスチール(株)、ツネシホールディングス(株)や福山市保健所の協力を得て、事業内容や仕事内容の紹介が行われる等、中高生に将来の職業について考える機会を提供しています。さらに、女子中高生に理系選択のエールを送るだけでなく、男子生徒に対しても、立ち遅れている男女共同参画社会の推進の意義について心理学科の青



野篤子教授から発信が行われました。第4回では、実験型理科学習に加えて、科学技術分野で活躍している卒業生などによる講演や交流会を予定しています。

理科教育支援事業“Science Lab”
取り纏め責任者

薬学部 教授 杉原 成美

スピーチコンテスト

2010年度広島県東部高校生英語スピーチコンテストは、平成22年10月23日(土)、福山市教育委員会、尾道市教育委員会、府中市教育委員会、竹原市教育委員会、ふくやま国際交流協会、福山大学留学生教育振興協会の後援と、広島県教育委員会、福山商工会議所、福山松永ライオンズクラブ、松永ロータリークラブの協賛を得て、福山大学1号館大講義室にて開催されました。県東部地区の10校より18名の高校生が参加し、「私の主張」、「夢」、「私の大切なもの」などのテーマに添って、日頃の英語力を競い合いました。今回で8回を迎えましたが、いつもながら高校生諸子の英語弁論力には目を見張るものがあります。外部の有識者を含む7名の委員による審査の結果、大賞には広島県立府中高等学校の笹川史絵さんが選ばれ、賞状とトロフィーならびにカリフォルニア大学リバーサイド校(UCR)からの1ヶ月間の短期留学奨学金、福山松永ライオンズクラブからの旅費の一部が授与されました。以下、準大賞(副賞として福山商工会議所会頭賞ならびに松永ロータリークラブ賞)にはそれぞれ広島県立上下高等学校の諸秀亭さんと広島県立尾道北高等学校の村上桃さん、優秀賞(副



スピーチコンテスト表彰式後の記念撮影(福山大学にて)

賞として福山大学留学生教育振興協会賞)には福山曉の星女子高等学校の森原瑞貴さんと盈進高等学校の細川彩さん、審査員特別賞(副賞として福山大学留学生教育振興協会賞)には広島県立明王台高等学校の丁博婷さんが選ばれました。

翌24日(日)には、本学留学生を対象とした日本語の部と全学生対象の英語の部からなる三蔵祭スピーチコンテストが開催されました。この学内スピーチコンテストは17回目で、15名(日本語の部7名、英語の部8名)の学生諸子が熱弁をふるい、聴衆に深い感銘を与えました。日本語の部では、経済学部劉婧さん(最優秀賞)、

李韓君(優秀賞)、額日敦布和君(奨励賞)、英語の部では、経済学部岳孜静さん(最優秀賞)、小川理恵さん(優秀賞)、薬学部の森田倫代さん(奨励賞)がそれぞれ各賞を受賞しました。各受賞者には賞状とトロフィーならびに副賞が、また参加者には参加賞がそれぞれ授与されました。なお、本スピーチコンテストの実施に際しましては福山大学留学生教育振興協会の後援を賜りました。

最後にスピーチコンテストへの参加諸子を讃えるとともに、ご尽力ならびにご援助を賜りました皆様に感謝を申し上げます。

国際センター国際交流部長

薬学部 教授 田中 哲郎

第3回「友だちにすすめたい本」コンクール受賞者決定

多感な高校時代を過ごす学生たちに、読書の新鮮な感動を文章にして表現して欲しい。そんな思いから、人間文化学科では2008年に「友だちにすすめたい本」コンクールを初開催しました。そして、文字制限を400字から500字に増やし、気分も新たに臨んだ今年のコンクールでは、26の高校から1691篇の力作を得ることができました。

人間文化学科では、厳正な審査を進め、このほど学校賞2校と最優秀賞1篇・優秀賞4篇・佳作賞20篇・学校別審査員賞36篇を選出しました。学校賞には応募数



の多さと取り上げた本の多様さが評価され、銀河学院高等学校と広島県立神辺旭高等学校が選ばれました。また、灰谷健

次郎の長編小説『島物語』をしっかりと読み込んだ岡畑香里さん(如水館高等学校)の作品「日常を愛す」がみごと最優秀賞に輝きました。素晴らしい作品をお寄せ頂いた高校生の皆様と、ご指導頂いた先生方に、この場を借りてお礼申し上げます。

なお、詳しい受賞結果については、ホームページからも閲覧することができます。

<http://www.fuhc.fukuyama-u.ac.jp/human/hc/index.html>

人間文化学科 准教授 引野 亨輔

第5回 高校生CMコンテスト

メディア情報文化学科では、恒例の「高校生CMコンテスト」を開催しました。このコンテストは、映像メディアに対する高校生の豊かな感性を開花させ、その才能を支援することを目的としています。全国の高校生を対象として、「あなたの『まち』を、全国にアピールしよう!」というテーマで作品を募集したところ、「映像作品の部」に89作品、絵コンテに企画をまとめる「企画コンテの部」に38作品、地域の魅力を短いフレーズに凝縮する「広告コピーの部」に20作品と、昨年度を上回る応募をいただきました。

9月下旬、(株)サン・アドのアートディレクターであるナガクラトモヒコ氏と、同社顧問でCMプロデューサーの藤森益弘客員教授を審査員に迎えて、厳正な審査をおこないました。白熱した議論の末、「映像作品の部」のグランプリに選ばれたのは、京都府立京都すばる高等学校の日下峻さんによる「光が生まれた町～ようこそ八幡市へ～」。「広告コピーの部」のグランプリは、大阪市立扇町総合高等学校の瀧下幸世さ



んによる「マチカネワニの眠るまち」(豊中市)でした。なお、「企画コンテの部」はグランプリ、金賞ともに該当作なしという結果になりました。

そして10月24日、三蔵祭を開催中の福山大学で表彰をおこないました。藤森教授の講評を真剣に聴き入っていた受賞者

のみなざしが印象的でした。

受賞作品の詳細はウェブサイトをご覧ください。

<http://www.fuhc.fukuyama-u.ac.jp/human/media/cm/>

メディア情報文化学科 講師 飯田 豊

第9回 ロボットコンテスト



今年で9回目となるロボットコンテストは、昨年までと異なりピンポン玉だけでなくゴルフボールも運搬する、より高度な競技となりました。今年のロボットコンテストには、中学校7チーム、高等学校2チームの9チーム40名の参加がありました。

本年度のロボットコンテストに優勝したのは福山工業高等学校のKENTAKUROSでした。準優勝は済美中学校の

VF5FSでした。済美中学校のチームは初の決勝進出でした。

参加した生徒たちから、「来年度は10年目の記念大会なのでぜひ優勝したい。」「卒業生の先輩にも声をかけて一緒に参加します。」「来年度のロボットコンテストの案内を早めをお願いします。」などの言葉を頂き次年度につながる大変有意義なロボットコンテストとなりました。来年度は大学祭でロボットコンテストを開始して10年目となります。来年度の第10回記念大会は新しい企画も検討しています。

機械システム工学科

講師 小林 正明

キャリア教育

就職活動を応援します—教員を核とする人的ネットワークに基づく就活力養成プログラム—

一昨年以降始まった世界同時不況とともに日本経済が急速に悪化し、大学生を取り巻く就職環境は非常に厳しいものとなっています。このような厳しい就職環境を勝ち抜くには、なによりも就職に対する強い意欲とともに、社会人となるための力(就活力)をしっかりと身につけることが必要です。

福山大学では、学生の皆さんの就職活動の支援を行うために、今年度よりキャリア形成支援センターが設立され、さまざまな取り組みを行っています。その一つとして、平成21年度より、文部科学省の補助を受けて、3年間にわたる就職支援事業「教員を核とする人的ネットワークに基づく就活力養成プログラム」が始まっています。

このプログラムでは、学生諸君の就活力を養成するために、1年次から4年次までの連続的なキャリア教育プログラムの構築をめざしています。そのため、1年用～4年用の福山大学独自のテキスト「キャリアデザインノート」を作成しており、今年の1年生からこのテキストを使った講義が始まっています。また、教員による就職支援を効果的にするために、就職情報システムを整備し、専門のキャリアアドバイザーによる就職相談室を設けるなど、企業や保護者の方たちと連携しながら、多方面から学生諸君の就職活動を支援します。学生諸君も、キャリア形成支援センターで提供するさまざまなプログラムを積極的に活用して、将来のための力をしっかりと蓄えていただきたいと思います。



キャリアアドバイザーによる就職相談

キャリア形成支援センター長
建築・建設学科 教授 西原 晃

平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」—「備後就活仕掛け塾の開設」—

本事業は、平成26年までの5年間にわたる国の補助金事業であり、本取組に対して文部科学省から総額約6千万円の大学改革推進等補助金が交付される予定となりました。この取組では、キーワードとして「セミナー」、「就活」、「熟年者」、「備後地域」、「福山駅前校舎」を列挙し、「備後地域・社会特性」、「産官学連携」、「官製公認の就職支援」などを考えています。参加学生が厳しい就職戦線を勝ち抜くための基礎的学力の向上、就職活動に向けた意識改革と経験豊富な熟年者との接触機会を増やすことを塾開設の大きな目的とし、就業力の向上結果が得られることをめざすものです。ここでの就業力については、「コミュニケーション」、「ディスカッション」、「プレゼンテーション」のそれぞれの能力を考えており、今年度は主として工学部と経済学部3年次生を対象として、学外からの熟年者の講師の方々に



写真-1 学長開会挨拶

講演や少人数教育の形でのゼミを開講してもらい、討論内容や試問・試験などによる評価をしていただくことを考えています。第1回目を既に11月13日(土)の午後に開講し、学長の松田先生の本事業の趣旨説明(写真-1)に続き、工学部はローツェ(株)崎谷文雄様(写真-2)、経済学部は日経メディアプロモーション(株)の門田修様のそれぞ



写真-2 講演風景(講演者:崎谷氏)

れの講演でスタートすることができました。今年度は、補助金の交付内定が遅くなったため、残りの講演やゼミなどを開く機会が少なくなりましたが、3月までには10回ほどの開催計画を立てています。

本事業推進責任者
建築・建設学科 教授 梅田 眞三郎

第33回福山大学薬学部卒後教育研修会

春季の福山大学薬学部卒後教育研修会が6月5日(土)、福山大学社会連携研究推進センター(宮地茂記念館)において開催されました。演題テーマは「乳癌治療について」で広島大学病院のお二人の先生を招いてお話を伺いました。塩見学部長の挨拶に始まり14時30分から17時35分まで3時間にわたり実施され、参加薬剤師は、本学卒

業生54名、一般薬剤師49名でした。講演1は「乳癌診療の最前線で薬剤師に何が求められているのか～乳腺外医からのリクエスト～」で広島大学病院乳腺外科講師の村上茂先生でした。乳癌は世界で最も多くの女性が罹患する癌腫であり、標準治療の確立が最も進んだ癌腫だそうです。村上先生は乳癌診療の最前線について解説と治療

法の概略について講演されました。講演2は「乳癌治療における薬剤師の役割」で広島大学病院薬剤部の櫻下弘志先生のお話でした。経口抗がん剤の多くは、注射抗がん剤と比べ身体的な侵襲性が少ないが、十分な治療効果を得るには、高い服薬コンプライアンスが必要となるそうです。櫻下先生は広島大学病院における、薬剤師の初回導入時から患者への関わり、副作用の発現時期の説明や支持療法について紹介されました。今回の参加者は、演題テーマからして女性の方が多かったようでした。医師と薬剤師のそれぞれ異なる観点からの興味深い講演で、自己研鑽される薬剤師の方には意義のある研修会であったと感じました。

薬学部卒後教育委員
薬学部 教授 古野 浩二



撮影 土谷大樹助教

職業としての学問

税務会計学科

このたび、学報に寄稿する機会をいただいた。締め切りは、1週間近く過ぎており広報委員の先生方や担当の事務局の怒りの形相が目に見え、キーボードを叩く手は震えている。1分でも早く原稿を提出しなければならない。早速、研究室の掃除に取り掛かる。その後、体調を整えるために学内の1号館コンビニで買い物をし、肉まんとコーラで栄養をつけ目を閉じて精神集中をする。気付いたら2時間近くが経過していた。

標題にも示したように大学の教員は学問を生業としている。一般に学問を究める研究者になるような人に対しては、松田学長や掛江経済学部長に代表されるように小学校の頃から成績優秀で品行方正、勉強が好きな真面目な人というイメージが浮かぶ。福山大学の教員も例外ではなく99%の先生方はそのようなタイプの方々ばかりである(残りの1%は、私とその酒飲み仲間の教員だけだ)。自分の大学時代を思い出すと大学の授業よりも図書館か大学近くのコーヒーショップで本を読

んで過ごした時間の方が長かった。(ちょうどスターバックスコーヒーが日本に上陸した頃であった)後に自分が専攻する会計学の古典を中心に読んでいたが今思うとあの頃は本当に興味を持ったことだけに時間を取れる幸せな時間であった。自分の興味のある分野の研究をしてお金がもらえる研究者という職業の存在を知ったのは、ちょうどその頃だ。

研究者をやっていくうえでもっとも重要な事は、研究テーマの設定である。私の研究テーマは「高等教育機関を中心とする非営利組織の外部報告会計の研究」であるがこのテーマを選んだ背景にはとても深い考えが隠されている。そのすべてを説明すると3ページくらいの本が一冊書けるので詳細は割愛するが一言で言うならばこの分野は、現在の我が国において発展途上の分野であるということだ。近年、NPO法人や公益法人をはじめとする非営利組織に対する社会的関心が高まっており、私の研究領域に対しても検討すべき課題が多く提示されるようになった。その

おかげもあって福山大学に奉職を始めて2年弱の間に4本の全国大会での学会報告と5本の論文(内査読付は2本)という成果を残せた。研究者としては、最低ラインの数字で恥ずかしい限りであり今後は質、量共に研究の精度を上げていかなければならないと考えているが、このような研究環境が与えられていることに感謝をしている。

この仕事をしていて感謝すべき事は自分の興味関心があることにいつも触れられるという点と学生から若いエネルギーをもらうことで教え、教えられることが日々得られることにある。大変にやりがいのある仕事で今の状況に感謝をしている。もしこの文章のタイトルのオリジナルにピンと来た学生はとりあえず大学院への進学を考え、研究の楽しさを知ることをお勧めしたい。



税務会計学科

講師 古市 雄一郎

「研究のための研究」と「勉強のための勉強」

建築・建設学科

工学部建築・建設学科の耐震工学研究室では、『建築構造の立場から“より良い環境と技術の調和”をめざして、“真に役立つ技術とは何か”を追求し、社会のニーズに対応すべく新技術の開発を行う』をモットーに、建設分野・材料分野における技術革新の推進をはかり、基礎研究から地域・社会のニーズに合わせた技術開発研究まで幅広く研究活動に取り組んでいる。研究活動の場となっている「構造・材料開発研究センター」は、国内最大級の大規模実験設備を誇る研究センターであり、産官学連携による各種実大構造物の性能評価プロジェクトを行っている。

平成22年度の研究室メンバーは、南教授と准教授の寺井、研究員1名、大学院生2名(博士課程1名、修士課程1名)、学部生9名(4年生6名、3年生5名)である。かつてはもっと大所帯だったが、「あの研究室は実験が大変らしい」という噂が学生の間に広まって(?)配属希望者が減ってきている。しかし

ながら、当研究室は、外部企業や他大学と一緒に研究することが多く、学外から研究室に出入りしている方がいるのでいつも賑やかだ。実験シリーズ終了時などの節目で打ち上げコンパを開くと、あっという間に20人近くが集まる。いいアイデアやセンスを磨くためには息抜きも必要であり、学生にとっては、他大学や企業で研究している方と接する機会は、大きな刺激になっていると思う。

当研究室の心得としていつも学生に言うのは、「研究のための研究はしない」「勉強のための勉強はしない」ということであ

る。研究のための研究をしないというのは、研究成果を具体的な形で対外的に提案することを意味している。外部から評価されないままの研究は、単に金と時間を浪費するだけで自己満足にもなりかねない。たとえ卒業研究でも、価値ある研究をめざして学会等に発表させ、その研究成果を外部に問うことにしている。勉強のための勉強はしないというのは、研究のための勉強をすることである。卒業するため、単位や資格取得のためだけの勉強ではなく、研究のために必要な勉強をして、理論の真価を立証するために実験を行うことが大切であると考えている。

ここまでの話を読んだ方は、この研究室は厳しそうだ、という印象が強いかもしれない。でも左の写真を見てもらいたい。研究室のメンバーたちは毎日休みなく大学に来て、活き活きと研究に取り組んでいる。当研究室で学び経験したことは、少なからず社会に出てからの糧になると信じている。



実験室にて(2010年夏)

建築・建設学科 准教授 寺井 雅和

学長室訪問

松田文子先生が学長に就任されて半年が経ちました。どんな方だろうと思っていたとき、学長との懇談会に出席する機会をいただきました。10月15日(金)に生命工学部の学生9名が学長室を訪問しました。初めはみんな緊張しましたが、ケーキや紅茶のおもてなしを頂き、また、講義や学生実験でご指導いただいたことのある松浦史登副学長が和



やかな雰囲気を作ってくださったおかげで、緊張が徐々にほぐれていき、いろいろな意見を交わすことができました。

松田学長が日頃感じていることや、要望があれば意見を聴かせて下さいとおっしゃったので、みんな思い思いに話しました。その中のいくつかをご紹介します。他学部や他学科の講義を受講したり、その講義を履修することで資格を取得できたらいいという意見

が出ました。すると学長は、他学部・他学科の講義を受講できる副専攻制の制度化を検討中で、来年から実施する予定であることを教えていただきました。他学科の専門知識も学ぶことが個人個人のスキルアップにつながり、就職活動にも役立てることができるのではないかと感じました。就職課の職員数が少ないのでもっと増やしてほしいという意見に対して、学長は就職課の職員だけでなく、各学部の先生も就職相談にのってくださるので、積極的に相談するようにご助言いただきました。

学長は私たちの意見や疑問に耳を傾け、一つひとつ丁寧に答えていただきました。懇談では学長のお人柄にふれることができ、みんながいろいろな思いで学生生活を送って

いることがわかりました。とても有意義なひと時を過ごすことができ感謝しております。

生命工学部

生物工学科 4年 竹本 有希

■学生の学長室訪問

日 時	対 象	場 所
10月15日	生命工学部	学長室
11月 2日	工学部	学長室
11月15日	人間文化学部	学長室
11月19日	薬学部	特別閲覧室
11月22日	学友会	特別閲覧室
12月10日	経済学部	学長室

※上記の日程で各学部等の学生が学長室を訪問しました。

2010年度UCR日本文化研修

本研修は姉妹校であるカリフォルニア大学リバーサイド校の学生を対象に、日本文化の紹介の場を提供するものです。5回目となる本年度は、9月5日から14日までの期間で実施されました。カリフォルニアから来日した5名がこれに参加し、日本文化を見聞する機

会を得ました。

研修は各学部からの講義と基礎日本語講習、ならびに陶芸、華道、茶道、着付け、禅、能舞台見学、平和学習などのワークショップ、及び大三島・瀬戸田、広島平和公園、宮島、岡山への小旅行から構成されて

います。講義は、経済学部古市先生、人間文化学部西田先生、工学部沖先生、生命工学部井ノ内先生、薬学部井上(敦)先生により行われました。基礎日本語講習では人間文化学部三浦先生、胡子先生のご尽力をいただきました。ワークショップでは陶芸の藤本先生、華道の垣内先生をはじめ、茶道と着付けならびに大三島・瀬戸田小旅行につきましては、それぞれ国際ソロプチミスト福山ならびに福山松永ライオンズクラブの皆様方にご協力をいただきました。また、これらの研修科目には、本学の学生がランゲージパートナーとして参加しました。UCR日本文化研修ではこのように、学生間の交流を推進しているところです。

研修生諸君は期間中、福山市内の家庭に滞在し、日本の生活文化を満喫しました。ホームステイに関しましては、福山大学留学生教育振興協会を中心に多大なるご尽力をいただきました。この場をお借りいたしまして、ご協力をいただきました皆様に御礼を申し上げます。最後に、UCR日本文化研修が今後も発展し、姉妹校との互惠関係がより充実したものとなることを祈念いたします。

国際センター国際交流部長

薬学部 教授 田中 哲郎



2010年度UCR日本文化研修 総長ならびに学長への表敬訪問のあとで(福山大学15号館)

合同企業説明会を開催

<厳しい就職環境に即応>

今年も学内合同企業説明会を2月から3月にかけて3回実施しました。それに加え新規学卒者の極めて厳しい就職環境に対応

し、8月3日(火)には合同企業説明会を特別企画により福山大学社会連携研究推進センター(宮地茂記念館)にて実施しました。181名の4年生が参加し、広い視野から将来を



展望する好機になったようです。参加企業数は福山市を中心に56社にのぼりました。厳しい景気動向や業務実績の中にありながら本学との連携を重視し、御参加いただいた企業様には大変感謝しております。

また、3年生に対する就活支援の強化策のひとつとして、今年度新たに本学のバスを利用した企業説明会への合同参加を行いました。11月20日(土)には岡山市で、23日(火)は広島市でそれぞれ開催された企業説明会への参加者数は合計で211名にのぼりました。事後のアンケートによりますと、無料バスにより経費負担が軽減されたことと、企業説明会を就活に活かす方法が理解できたこと等に、参加した学生からは高い評価がなされています。

学生のみなさんは自己を活かす将来の選択に向けて、更に自己省察と業界研究を深め、就職活動に邁進してください。

学務部 就職課

公務員講座開講中

公務員希望者に対する大学のサポートプログラムの一環として、全学部学生を対象にした補習講座を毎年開講しています。最近では、地元福山市にある専門学校で、公務員試験情報に詳しい「TAC福山校」と提携、講師の派遣を受けて実施しています。

主として3年次生が対象で、6月から9月にかけて「基礎講座」を14回35時間、10月～翌年6月にかけて「本講座」を49回120時間、さらにその後6月から7月にかけて「直前対策講座」を9回27時間実施します。

現在は本講座の真っ最中で、経済学部9名、人間文化学部4名、工学部6名、生命工学部1名、全学で20名の学生が、水曜日5時間と土曜日午後の週2回、奮闘中です。市役

所の一般公務員のほか、警察官、消防官などをを目指す学生が多いのです。

ところで、最近、自治体の合併推進で職員数が過剰になっており、新規採用数が抑えられてきましたが、団塊世代の職員の定年退職が始まり、新規採用が増加傾向になっています。しかしながら、財政難で職員数を削減したいことから、昔ほどの採用数は望めず、大変狭き門になっています。

このような状況で、本講座受講生であっても合格は非常に難しいのが実情です。ところが、最近大変嬉しいニュースがありました。地元福山市の上級職採用試験に、昨年度までの受講生の中から、2人も合格しました。経済学部女子学生と、工学部男子学生です。

福山市上級職への合格は実に何年振りの出来事です。大学の専門科目を勉強し、この補習講座で教養問題科目をあわせ勉強すれば、希望をかなえることが不可能ではないということです。

さて、10月に始まった本講座は、現在前半の「一般知能コース」の勉強をしていますが、12月15日にこのコースを終了します。その後、1月8日から、後半の「一般知識コース」に入ります。現在未受講の人でも、この後半からの受講が可能です。公務員に関心のある3年次生の途中参加を歓迎します。

公務員等試験対策部会長

国際経済学科 教授 井上 矩之

2010年度公開講座終わる

福山大学と三原市中央公民館中講堂の2会場で、9月から10月にかけて、「グローバル時代を迎えた地域と私たち<2>」という統一テーマのもとに、福山大学公開講座を次の通り実施しました。なお、今年度は新学長が就任しましたので、前例に倣い、第1回目に特別講座を開講しました。

第1回【特別講座】「現代社会と若者」

学長 松田文子

第2回「世界を動かす石油とイスラム金融」

経済学部 教授 島 敏夫

第3回「児童の発達の過程における帰属スタイルの日米比較—日本でリーダーが現れない訳—」

人間文化学部 教授 堤 俊彦

第4回「自動車への風当たりとグローバル化—環境という名の、追い風、向かい風、そして つむじ風—」

工学部 教授 布施 守雄

第5回「グローバル化が養殖業にもたらしたもの」

生命工学部 教授 伏見 浩

第6回「薬剤師教育改革の目指すもの」

薬学部 教授 吉富 博則

閉講式において、6回中5回以上の出席者に、修了証書を授与しました。

会場ごとの申込者数、受講者数、修了者数は次の通りです。

会場	申込者	受講者	修了者
福山	182	173	78
三原	86	81	58

申込者の構成は、年齢では60歳以上、職業では主婦や無職の方が大部分を占めています。

受講者アンケートによれば、テーマに「あまり興味・関心がわからない」という人はどの講話も0~3人に止まり、概ね好評といえます。しかし20%近い人が「少し難しすぎた」、「聞き取りにくかった」と答えた講話もあり、高齢者が多いことから、さらに易しく、また明瞭な発音を心がけることが今後の改良点でしょう。開講を希望する分野は、福山会場は「健康と薬」「政治・経済」、三原会場は「国際関係」「政治経済」が多い。これらの結果を来年度の講座に反映させたいと思います。

公開講座委員長

国際経済学科 教授 井上 矩之

学友会短信

【サッカー部】

- 6月19日～11月13日 Iリーグ中国2010 第2位
- 4月25日～10月31日 2010年度中国大学サッカーリーグ 第2位
- 5月16日～10月24日 第9回広島県社会人サッカーリーグ2部リーグ 第2位 (入替戦により、1部リーグへ昇格)
- 10月16日 第2回全国地域安全運動フットサル大会 優勝

【陸上競技部】

- 10月11日 第22回出雲全日本大学選抜駅伝競走 村田 総(建築2年)
- 10月22日～24日 第33回中国四国学生陸上競技選手権大会
男子5,000m 第2位 岡田 泰平(経済3年)
男子10,000m競歩 第2位 廣藤 耕一(経済1年)

【硬式野球部】

- 9月4日～10月31日 平成22年度中国六大学野球秋季リーグ戦 出場
- 11月26日～11月28日 第24回中国地区大学野球新人戦 優勝

【剣道部】

- 10月31日 第58回全日本学生剣道優勝大会 出場
- 11月3日 第3回天野杯剣道選手権大会 団体戦 第3位

【ボート部】

- 9月23日～29日 第65回国民体育大会 三谷 真菜実(薬5年) 出場
- 10月1日～3日 第54回中国学生ボート選手権大会
男子シングルスカル 第2位 北条 正人(海洋4年)
男子ダブルスカル 第2位 川谷 司(海洋2年) 藤井 俊也(経済2年)

【水泳部】

- 9月4日～5日 第86回日本学生選手権 3m飛板飛込 藤井 誠也(建築3年) 出場
- 9月10日～12日 第65回国民体育大会 飛び込み 成年男子
藤井 誠也(建築3年) 出場

【弓道部】

- 8月8日 第58回全日本学生弓道選手権大会 個人戦 安藤 巧(経済1年) 出場
団体戦 出場

【卓球部】

- 8月23日～25日 第61回中国学生卓球選手権秋季大会 出場

【ダンス部】

- 9月19日 第17回ゲタリンピック2010 出演

【吹奏楽部】

- 11月13日 「じばさんフェア2010」～エコを考えよう～にて演奏

【三蔵太鼓を打つ会】

- 11月13日 「じばさんフェア2010」～エコを考えよう～にて演奏

【YRC部】

- 7月11日・8月29日・10月10日

松永駅周辺のゴミ拾い

- 8月22日・9月26日

福山駅周辺のゴミ拾い

【学友会執行部】

- 9月19日 第17回ゲタリンピック2010
- 10月22日 秋季学長杯争奪競技大会 (ソフトボールの部、ソフトバレーボールの部、3 on 3の部)

学友会サークル新規承認について

○囲碁・将棋同好会

(平成22年7月6日付 承認)

(学務部 学生課)

第58回全日本学生剣道優勝大会に出場!

ー 東海大学に敗退し初戦突破ならず ー

本学学友会剣道部が平成22年8月29日(日)に岡山市総合文化体育館で開催されました、第57回中四国学生剣道優勝大会において健闘し、10月31日(日)に大阪府立体育会館で開催されました第58回全日本学生剣道優勝大会に出場しました。全国大会への出場は2年連続となりますが、今年度は、東海大学(関東)に敗れ、残念ながら初戦突破はなりませんでした。応援してくださいました、教職員の方々、ご学友に心から感謝いたします。

なお、中四国学生剣道優勝大会では、経済学部経済学科4年の坂本至主将が優秀選手に選ばれました。



剣道部顧問 電子・ロボット工学科 教授 香川 直己

第24回中国地区大学野球新人戦で本学硬式野球部が優勝!

福山市民球場で、11月26日(金)から11月28日(日)までの期間に行われた、第24回中国地区大学野球新人戦において、本学硬式野球部が優勝し、経済学部1年次生の津田純一君が、最高殊勲選手賞を受賞しました。

- | | | |
|------|------------|--------|
| 1 回戦 | 対 山口大学 | 10 - 0 |
| 2 回戦 | 対 岡山県立大学 | 11 - 0 |
| 3 回戦 | 対 吉備国際大学 | 9 - 5 |
| 準決勝 | 対 川崎医療福祉大学 | 5 - 4 |
| 決 勝 | 対 環太平洋大学 | 7 - 6 |

学務部 学生課



国際交流瓦版

- ◎平成22年度私費外国人留学生学習奨励費
奨学生として、王毅さん(経済学研究科 2年
中国)ほか、19名の採用が決定。(6月11日)
- ◎中国の四川外語学院成都学院と学術教育協
定の締結。11校目の提携校。(6月30日)
- ◎(財)ひろしま国際センター奨学金授与式に江
文津さん(国際経済 2年 中国)ほか5名の
全奨学生が足立浩一国際センター留学生部
長と共に出席。(7月8日)
- ◎米国の協定校、カリフォルニア大学リバーサイ
ド校(UCR)での夏季集中英語研修のため、本
学から村上由希子さん(経済 4年)ほか10名
の学生達が約1カ月間の短期留学。引率は重
迫隆司准教授。(8月1日~8月29日)



- ◎平成22年度新入生及び編入生を対象とした
「広島地域視察ツアー」を実施し、足立浩一国
際センター留学生部長引率のもと、33名の学
生達が参加。ボランティア学生として日本人学
生も参加。(8月2日)



- ◎広島県主催、平成22年度広島県実用日本語
研修に本学から8名の留学生が参加し、福山
地区では、本学の社会連携研究推進センター
において、ビジネス日本語を6回にわたって学
修後、福山市でのホームスティやインターンシ
ップを体験。(8月18日~9月17日)
- ◎ふくやま国際交流協会が主催する「異文化理
解講座」において、Muthoni Eric Muneneさん
(国際経済 2年 ケニア)が自国の文化等
について講演。(9月5日)
- ◎米国の協定校、UCRの学生5名が本学で開



- 講された日本文化研修を受講。当
研修では5学部授業を英語で講義。本学の
学生達はホストファミリーやランゲージ・パート
ナーとして、留学生交流。(9月6日~9月15日)
- ◎福山市立駅家小学校で欧黎斯さん(メディア
情報文化 3年 中国)が講師として、中国の文
化や民話を講義。(9月8日)
- ◎平成22年度後期入学式において、協定校か
ら、20名の留学生が入学。後期入学した留
学生の内、協定校である四川外国語学院成
都学院からは初の留学生の受入。
- ◎中国の協定校、対外経済貿易大学から、王婉
薇さんを経済学部経済学科に平成22年度後
期から平成23年度前期までの1年間、交換
留学生として受入。(9月15日)
- ◎中国の協定校、上海師範大学へ本学から交
換留学生として、小路晃範さん(経済 2年)と
河本大輔さん(経済 2年)の2名を半年間派
遣。派遣先の大学では、授業料が無料となり、
奨学金が給付。
- ◎(独)日本学生支援機構の留学生交流支援制
度(短期派遣)による奨学金を得て、山田紗衣
さん(国際経済 3年)がカリフォルニア大学リ
バーサイド校へ半年間の短期留学。本学から
も留学支援のため奨学金を支給。(9月16日)
- ◎平成22年度私費外国人留学生学習奨励費
奨学生として、王飛雲さん(国際経済 3年 中
国)が追加採用決定。(9月22日)
- ◎(財)ひろしま国際センター主催の就職活動研修
会が、5回にわたって、県民文化センターふくや
まで開講された。日本企業への就職を目指す
留学生対象。本学から14名の留学生が参加。
(10月15日~11月19日)
- ◎松永ロータリークラブ創立記念式典で本学の
留学生、額日敦布和さん(国際経済 1年 中
国)とMuthoni Eric Muneneさん(国際経
済 2年 ケニア)が民族楽器を演奏。
(10月17日)
- ◎第8回広島県東部高校生英語スピーチコンテ
ストを開催。10校19名が出場し、大賞には広
島県立府中高等学校1年の笹川史絵さんの
「江戸しぐさから学ぶ」(Learn from
"Edo-shigusa")が輝く。大賞受賞者には
2011年UCR留学サマー・コース奨学金等を
授与。
- ◎三蔵祭では、国際センター留学生部、留学生
会、孔子学院との共催で第1回中学生ク
イズ大会を実施し、日本人学生と留学生とが交
流。(10月23日)
- ◎三蔵祭では、留学生会が餃子・焼きそば等模
擬店を出店。(10月23日~10月24日)
- ◎三蔵祭スピーチコンテスト日本語の部門で劉
婧さん(国際経済 3年 中国)「かわいい子には
旅をさせよう」のスピーチが「最優秀賞」、英語
の部門では、岳孜静さん(国際経済 3年 中

- 国) My hometown Guizhou のスピーチが「最
優秀賞」を授賞。



- ◎劉婧さん(国際経済 3年 中国)が福山ロータ
リークラブ講話で通訳。(10月24日)
- ◎平成22年度UCR夏季集中英語研修生修了
証書授与式において、研修生11名全員が修了
証書を学長から授与された。(10月25日)
- ◎広島県下の大学から留学生や日本人学生が
参集した、第12回広島地域留学生会総会・交
流会及び第5回国際親善スポーツ大会が本学
で開催され、松浦史登副学長が本学を代表し
て挨拶。留学生総会においては、広島地域留
学生会では、新会長には本学の留学生会会長
の孫麗娜さん(国際経済 2年 中国)、理事
には任鵬程さん(機械工学 2年 中国)信任。
第5回国際親善スポーツ大会では、フットサル、
ソフトバレー、バスケットボール、バドミントンの4
種目で、大学間での活発なスポーツ交流が行
なわれ、本学はフットサル競技で準優勝。
(10月30日)



- ◎本学とソフィア大学(ブルガリア)との学術交
流協定を締結。本学においては欧州では初の
協定校であり、学術協定校としては12校目。主
として学生の交換留学、教員の相互派遣や共
同研究の促進等が期待できる。(11月2日)
- ◎2010年度熊平奨学文化財団主催、奨学生と
の交流会に富士彰夫副学長が当財団奨学生
の焦鳳蘭さん(国際経済 4年 中国)や
Muthoni Eric Muneneさん(国際経済 2年
ケニア)と共に出席。(11月11日)
- ◎井原市立高屋小学校や福山市立東村小学校
で、額日敦布和さん(国際経済 1年 中国)が講
師として、中国文化の紹介等を講義し、内モン
ゴルの民族楽器、馬頭琴を演奏。
(11月12日・11月19日)

(学務部 国際交流課)

入試広報室から

◆入試説明会

高校進路指導担当者を対象に、福山大学および福山平成大学の入試説明会を6月14日から18日まで、各地の11会場で開催しました。

高校からの参加者は、121校127名でした。

◆大学参観を兼ねた入試説明会

9月17日、福山大学および福山平成大学の大学参観を兼ねた入試説明会を合同開催しました。参加教員の事前希望であった両大学の施設・設備の見学後、福山市内のホテルで両大学の入試説明、質疑応答が行われました。参加者は、13府県50校66名でした。

◆進学相談会（業者主催）

業者主催の進学相談会において、本年度は広島など22都市44会場で高校生・保護者・教員、総計827名の進学相談に応じました。

◆見学会・体験入学会

毎年恒例の見学会を7月17日、9月11日、体験入学会を8月1日、8月28日に開催しました。

見学会の参加者は7月17日は高校生100名、保護者47名、計147名、9月11日は高校生89名、保護者43名、計132名でした。体験入学会の参加者は8月1日は高校生497名、保護者223名、計720名、8月28日は高校生231名、保護者96名、計

327名でした。

福山平成大学においても、7月3日、9月11日に見学会、7月25日、8月28日に体験入学会を開催しました。見学会の参加者は7月3日は高校生68名、保護者29名、計97名、9月11日は高校生63名、保護者27名、計90名でした。

体験入学会の参加者は7月25日は高校生317名、保護者89名、計406名、8月28日は高校生166名、保護者49名、計215名でした。

◆高校PTA・教員・生徒の本学訪問

4月下旬から福山大学および福山平成大学への訪問は、高校15校842名でした。

平成23年度前期入試A日程〔特別奨学生 A 選抜含む〕

試験のある学部	福 山 大 学	福山平成大学
	経済学部・人間文化学部・工学部 生命工学部・薬学部	経営学部・福祉健康学部・看護学部
出 願 期 間	1月5日(水)～1月26日(水) 消印有効	
試 験 日	1月31日(月)～2月3日(木) ※試験日自由選択制	
合 格 発 表 日	2月8日(火)	
試 験 地	1/31 ～ 2/3 福山(福山大学・福山平成大学)・広島・山口・福岡・岡山・松山	
	1/31 鳥取・京都	2/1 米子 2/2 静岡
	2/3 神戸・名古屋	1/31・2/1 高松・大分・佐賀・東京
	2/2・2/3 松江・高知・鹿児島・熊本	2/1・2/2 大阪

同窓生・在学生入学金減免制度を実施しています。同窓生・在学生入学金減免制度とは、福山大学の同窓生の子弟および在学生の兄弟に対して、就学時の経済的支援のため、入学金を減免する制度です。同窓生の子弟および在学生の兄弟とは、入学者の親、兄弟、姉妹のいずれかが福山大学および兄弟校である福山平成大学の卒業生又は在学生(留学生は除く)です。詳細については、福山大学の入試広報室までお問い合わせ下さい。

後援会情報

福山大学後援会役員会（理事会）開催される！

三蔵祭(大学祭)期間中の10月23日(土)の11時から福山大学後援会役員会(理事会)が19号館1921教室で開催されました。

佐藤後援会長、松田学長の挨拶に続いて会長・副会長・監事・理事が自己紹介を行い、その後、8月下旬から9月上旬に全国13会場で開催された後援会地区別総会の報告がありました。

総務部 庶務課



挨拶する佐藤後援会長



役員会の様子

編集後記

今号は三蔵祭を巻頭で紹介しました。学生達が苦労しながらも活き活きとさまざまな行事に取り組んでいる様子がよく伝わってきます。また、じばさんフェア2010、地域連携活動、リレー講座では、地域に根ざし、地域の方たちと共に歩んでいく福山大学の姿が現れているのではないかと思います。また、今号で紹介したその他の行事からも、常に新しいことに取り組んでいる本学の様子が伺えます。

発行 福山大学
編集 福山大学広報委員会
〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
TEL(084)936-2111 FAX(084)936-2213

<http://www.fukuyama-u.ac.jp>